

えんちょう通信

No.84

令和4年11月14日
福島市立清水幼稚園
発行者 佐藤一男

「おいしいね」と顔を見合わせる幸せ



11月9日(水)、秋も深まってきましたが、朝から風もなく暖かな日になりました。「しみずキッチン」の芋煮会の日です。朝から、二文字屋さんと大内商店の大内さんが来て、幼稚園の玄関の前で大きなかまどを組み立てて、そこに大きなガスバーナーを設置しました。その上にこれもまた大きな鍋を置いて、二文字屋さんがそこに水を入れます。大内さんがガスバーナーに火をつけ、「3年ぶりだけど、調子はいいな。」と嬉しそうです。

すると、そこに隣の清水学習センターの分館で刻んだ芋煮の材料が、運ばれてきました。大きなビニール袋にごぼう、大根、ニンジン、白菜、ネギ、そして里芋などがたくさん入っています。どれも子どもたちが食べやすいように少し小さめに切ってあるようです。それを大鍋に入れて、芋煮づくりが始まりました。園舎の中に野菜が煮えるいい匂いが流れ込んできます。子どもたちは「いいにおい・・・。」と朝から気になって仕方がないようです。出汁を入れたり、みそを入れたりしていくと、園舎はますますいい匂いでいっぱいになっていきます。

「しみずキッチン」のみなさんも久しぶりなので、地域のことや近況を話したりして、みなさんととても楽しそうです。二文字屋さんが「ひさしぶりだからな・・・。3年ぶりだから、みんなうれしくて、にぎやかだな・・・。」と笑顔でおっしゃっています。

最後にネギをたっぷり入れて、11時前には、おいしそうな芋煮が出来上がりました。

11時を過ぎ、子どもたちと保護者のみなさん、先生方、そして未就学児の「こぐまの会」の子どもたちとお母さんが、園庭の桜の木の下に集まり、みんなで芋煮をいただきました。

「おいしいね。あったまるね。」と女の子が、友だちと話しています。

「こうやって みんなで食べられてよかったですね。」と話してくれるお母さんもいました。

「おいしいね。」と友だちやお父さん、お母さんと顔を見合わせる事が、こんなにも幸せなことなんだと、改めて感じました。

こういうふうになみなさんに大事にされる経験を通して、子どもたちは、「自分はこんなに大事にされているんだから、一生懸命やらなくちゃいけないな。」と思うようになっていくのだろうと思いました。コロナ禍の中ですが、みんなが幸せになる芋煮会でした。